

地 域 再 生 計 画

1．地域再生計画の名称

“ 生き生き千曲 ” まちづくり計画

2．地域再生計画の作成主体の名称

長野県

千曲市

3．地域再生計画の区域

千曲市の全域

4．地域再生計画の目標

千曲市は、長野県の北信地域の南東部に位置し、西は冠着山（姨捨山）、東は鏡台山をはじめとする山地に囲まれ、盆地的地形となっており、南北に流れる千曲川を挟む形で平野部が広がっています。平成15年9月1日に1市2町が合併した新市ですが、長野市・上田市の中間に位置し、両市のベッドタウンとして旧市町とも平成11、12年頃までは人口の増加が続いて来ましたが、少子化や産業構造の変化等により核家族化が進行してきています。

また、日本一の「森のアンズの里」や国の名勝指定となった「姨捨の棚田」、開湯100年を越える戸倉上山田温泉、また、東日本では最大級の石室を有する国史跡「森將軍塚古墳」、さらしなの里に広がる縄文遺跡など数々の観光・歴史資源に恵まれています。

しかし、かつてはこうした観光・歴史資源も各市町において保全と振興に努めてきましたが、新市となった今、こうした資源をはじめとして、生活環境面においても速やかな一体性の確保が求められています。

このことから、地域の重要なインフラである道路、農林道を効率的に整備することによる道路ネットワークの構築を行い、生活環境面における利便性の向上、市民間の交流促進を図るとともに、農林業の振興及び観光振興に努めることとします。

(1) 林道整備による林業の振興と観光振興

当市の区域総面積は、11,984haで内森林面積が6,824haで56.9%の森林率となっています。終戦後の急激な拡大造林により36～55年生が57%と非常に多く、間伐を中心とした森林整備を適期に実施することが求められているものの、核家族化等による林業後継者の減少と高齢者には急傾斜地の森林施業が困難なことから、適正な時期に行うべき作業に困難な

状況をつくり出し、結果として間伐等の森林整備が遅れています。したがって、林業従事者の森林施業に際し林道整備等を図ることにより円滑な森林施業を促し、適正期を迎えた針葉樹を中心に間伐等の促進を図り、当面、森林整備計画期間に行う間伐目標面積を997ha（千曲市森林整備計画）とします。

また、市内には聖高原県立公園や戸倉宿キティパーク公園等があり、遊歩道、キャンプ場、自然散策路等といった森林資源を活用した施設整備がされ、森林の総合利用により自然と人との共生の場ともなっています。また戸倉上山田温泉を有する本市にとって、市民のみならず、観光地としてのこうした施設をネットワーク化することによる有効活用は、観光振興の面からも大変重要な課題でもあります。特に重要な経済・観光基盤である戸倉上山田温泉は、入り込み客数が、昭和50年代前半の年間130万人をピークに年々減少し、現在では80万人にと大きく落ち込んでいることから、歴史的・文化的資源はもちろんのこと、自然的資源（森林資源）をネットワーク化し、観光客が周遊して時間消費できるような滞在型観光・レクリエーションの拠点として位置付け、PRすることにより入り込み客数の減少に歯止めをかけ、平成23年頃までに130万人を目標に掲げ、経済効果の復活と観光地としての活性化を目指します。そのための林道整備が果たす役割は大変重要であることから、地域要望も高く、ネットワーク化に効率的な林道の整備を進めます。

（2）道路整備による一体性の構築とまちづくり

当市の交通を取り巻く環境は、長野自動車道更埴インターチェンジ、更埴ジャンクションの開設などによって、高速交通の拠点性が高まり、また、市の中心を南北に流れる千曲川を中心として東に国道18号、西に県道が平行して走り、鉄道路線ではしなの鉄道の開業により、長野市・上田市への通勤通学者を中心に駅へのアクセスや幹線道路への接続なども含め、生活道路の整備に寄せる企業・地域住民の期待は高まっています。

特に合併直後の本市にとっては、旧市町間を結ぶ道路や駅・観光地へのアクセス道路などは市民の一体性確保のみならず、来訪者にとっても重要な課題であることから整備要望が高く、効率的な道路について整備を進めます。

現在市内には、しなの鉄道の駅が3駅あり、平成21年には新たに1駅を設置する予定になっていますが、現在ある屋代高校前駅・戸倉駅へのアクセスについては5～10分、戸倉宿キティパークへのアクセスについては10分、既所要時間からの短縮を目標に整備を進めます。

5．目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

坊城平いこいの森キャンプ場と大池市民の森キャンプ場を結ぶ「林道久露^{くろ}滝^{たき}線」については、市民の森林観光施設としての利用度が高いため、改良による安全確保を図る他、聖高原県立公園と国道403号を結ぶ「林道猿ヶ馬場^{さるがばば}線」については、松本平から善光寺平を結ぶ北国街道西往還として古くから利用され、現在でも私有林、学有林を有する森林整備路網の一役を担い、旧更埴市と旧戸倉町を結ぶ「林道北山線」については、観光時期になると戸倉上山田温泉、あるいはしなの鉄道戸倉駅からアズの里である森、倉科地区への観光道路としても利用されているため、観光地等とのアクセスを円滑なものにするため舗装整備を行います。また、林道久露滝線については、財産区有林と接しているため、改良による森林施業と間伐の推進を図ります。

「市道屋代新田線」については、しなの鉄道屋代高校前駅と県立歴史館・科野の里歴史公園・アズの里などの観光地を結び、「市道柏王一里塚線」については、しなの鉄道戸倉・屋代間に平成21年3月開業予定の新駅と国道18号を、また千曲川左岸の更級地区からの駅利用者アクセス道路として、「市道しなの鉄道東幹線」については、林道北山線としなの鉄道戸倉駅を、また旧戸倉町東部地区の戸倉駅へのアクセス道路として利用するなど、各路線とも観光面、地域の一体性の確保からも大変重要な路線であることから、改良工事等による整備を進めます。

「市道埴生本線」については、市街地と周辺地域を結ぶ道路として拡幅工事を行うことにより、周辺観光地へのアクセスを円滑なものにするるとともに、国道18号のバイパス的幹線道路として機能を強化します。

また、自然を活かした観光資源は森林のみならず古くから市民に親しまれ、地域に根ざした資源が数多くあります。そうした資源は千曲川左岸を中心に存在することから、千曲川河川敷を活用した「水辺の楽校^{がっこう}プロジェクト」事業や名勝姨捨「田毎の月」整備事業、城山史跡公園整備事業などと連携しながら、自然と歴史・文化の資源を活かし、強いては重要な経済・観光基盤である戸倉上山田温泉への集客を目指します。

なお、上記林道については「第11期千曲川下流地域森林計画」(期間平成17年4月1日～平成27年3月31日)に位置付けられ、上記各市道については全て「市道認定」路線です。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

(添付書類 1 - 1)

〔施設の種類(事業区域) 事業主体〕

市道(千曲市) 千曲市

林道(千曲市) 千曲市

〔事業期間〕

市道 平成18年度から平成21年度

林道 平成17年度から平成18年度

〔整備量及び事業費〕

市道 2.4 km

林道 2.8 km

総事業費 2,684,287千円(内交付金1,327,459千円)

(内訳)市道2,600,000千円(内交付金1,300,000千円)

林道 84,287千円(内交付金 27,459千円)

5 - 3 その他の事業

「水辺の楽校プロジェクト」事業 (市単独)

(計画期間平成18年度～平成20年度)

市民の貴重な財産である千曲川の豊かな自然を守りながら、水辺体験ゾーンや旅行者・家族等が集えるスポーツ的広場等を設置し、自然と人とのふれあいを重視した新たな水辺整備を図ります。

名勝姨捨「田毎の月」整備事業 (実施中：補助)

名勝指定の内、長楽寺地区については、歴史文学的景観整備を目的に月見堂・観音堂等の修復を、姪石地区については棚田保全のため水路整備等を行いながら「名勝(田毎の月)」の保存を図り、また平成17・18年度には名勝周辺の景観保全地区約75haについても地域住民とともに文化的景観保存活用計画を策定しながら姨捨棚田の景観保全を図っていきます。

城山史跡公園整備事業 (市単独)

(計画期間平成17年度～平成21年度)

戦国時代の城跡を復元した当施設は、平成7年6月に開園し、現在では年間1万人を超える入場者があります。千曲市を一望できる山腹に位置しているが、施設の傷みや柵が危険になってきたため年次計画で順次修復を行います。

6 . 計画期間

平成17年度～平成21年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、本計画期間終了後に必要な調査を行い、状況を把握し、市報等に公表するとともに、平成18年度から実施する予定の当市事業評価に合わせ（内部評価・外部評価）改善すべき事項等の検討を行います。また4で示した目標数値等については、評価の指標とします。

8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項
該当なし